

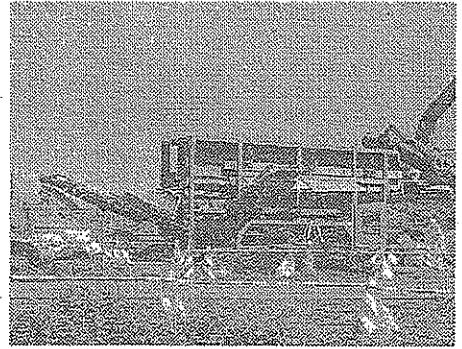
深松組（仙台市）

宮城県七ヶ浜町の 農地復元事業が本格化

県初導入 欧州製選別機が稼働開始

深松組（仙台市）深松
努社長が宮城県七ヶ浜
町で施工する農地除塩が
いよいよ本格化する。
同事業は昨年11月に

本格稼働を開始した高能率選別機



発注されたが、津波漂流
物が田畑に大量にくだ
り、これらなど予想以上
に
がれき類が多く、通常の
除塩工事の障害になつて

いた。このため県は
今夏、農地災害廃棄
物撤去工事を追加発
注し、これを先行し
て進めてきた。区域
は同町下田、中田、西
沢田地区の約35・
1ヘクタール。廃棄物処理量
は7万立方メートルと推定
されている。

津波堆積土砂と混
入がれきの選別に当
たり、ばつき乾燥のため
の材料（山砂、石灰等）を
無添加で分別しようと、
県下で初めてオーストリ
ア製のマルチスタースク

リーンを採用し、8月中
旬から稼働を開始した。
分別後の堆積土は農地に
戻し、がれき類は町の仮
置き場に運搬する。

選別機は絡み・詰まり
対策システムのクリン
スターと呼ばれる特許技術
を内蔵したスクリーン
デッキを採用したこと
により、汚泥等でも大量
かつ正確に分級できるのが
最大特長。類似機種が2
0センチの分級を境界とす
るのが通常とされる中、
15センチ分級を達成し廃
棄物の高能率選別を実現

した。機種選定理由につ
いて深松組の文屋英樹所
長は「発注者、地権者にテ
モを披露した結果、農地
復元に最適と判断した」と
説明。同機種を提案し
たアベゼン（仙台市の阿
部善信社長は「当地での
実績を基に、県内沿岸農
地の早期回復に貢献して
いきたい」としている。

10月には「ブック」と
呼ばれるオブションの可
搬式2分別クリーンデッ
キを連結し、処理能力を
増強する予定だ。